

# 市場から世界をみれば

IS6 情報システム株式会社 大谷淳一



立する。

てきている。

の予算を削り、市場運営

昭和46年、平成11年とそれは数十年前まで市場法の改正を経て、平は、この既得権益に守ら成21年に委託手数料の弾れ、多くの利益を上げて自由化を決定する。いた市場（市場は施設の既得権益であったはずの事を言うが、中に入場市場に携わる荷受会社や仲卸会社の経営状態も悪化する、倒産も相次ぎ、生鮮物流そのものが崩壊し出したのであった。このような状況に対し

大正元年 市場の試案を生産調査会に諮問し、検討を続ける。大正3年 この年から始まった第一次世界大戦の拡大が、日本に好景気をもたらず半面、物価の高騰と市民の生活難を招く。

大正7年 社会不安の頂点として「米騒動」が勃発。最初は公設の小売市場の設立を検討していたが、機能を十分に発揮するために「大量集荷、大量消費の拠点のための中央卸売市場」を設立すべきとの意見が、多くを占めるようになった。

昭和2年 最初の「中央卸売市場」が京都で開設された。そして戦時統制下と戦後の統制を経て、昭和25年に統制の全面解除が成在、この大前提がくずれ

「既得権益」の世界である。しかし現実卸売業者向けのコンサル

提供し、生鮮食料品等を取り扱う業者等に対しては、安定した仕入の場を確保することにより供給の安定に寄与する」となっている。つまり市場は、あくまでも「委託取引」が基本となっていた。すると国や地方自治体も市場に対する保護

「略歴」 1957年北海道美唄市生まれ。85年、食品管理、生鮮管理のシステムを開発する情報システムを創業。荷受卸売業者や食品製造会社、仲卸売業者向けのコンサル

「食糧操作」などがある。

「食糧操作」などがある。

「食糧操作」などがある。

「食糧操作」などがある。